

石堂山

矢筈山の真北に位置する石堂山。山頂は丸く平担でやわらかい印象だ。地元では「石堂丸」と呼ばれているという。

この山は信仰の対象とされ山岳修験場として崇められてきた歴史がある。

御神体は山頂東にある「御塔石」。高さは8mもあり迫力がある。

あぐさばには山名の由来となった大工小屋石がありこの岩の石室が石堂となったと考えられている。

国土の四分の三を山や丘陵が占め生活の場とほぼよい距離感があり古くから山は信仰の対象となってきた。

鎌倉時代中期以降山岳修業と体系化した修験道が全国に普及すると役小角の開山を説く山が増えていった。



矢筈山

矢筈の名前を持つ山は四国に5座あり、頂稜部がM字形に見え、矢をつかえる「矢筈」の形に似ていることが山名の由来とされる。

この山は山頂西にある高さ7mの矢筈岩が北から見ると矢筈の形に見え、源平屋島の戦で平家の大将が放った矢が飛んでまたからという説もある。

また、山岳信仰のある北の石堂山の奥の院でもあったといわれる。

徳島県内で5番目の標高を誇り周囲の山よりも100m以上坂をのぼっている。

山頂は360度開けており、天気が良ければ、剣山はじめ大展望が得られる。

2024.9.28 初登頂。一面まっ白の霧で、まったく眺望はなかったが、こんな日もある。